

ABO 血液型の検査結果が他施設と乖離した症例の解析

◎内田 有咲¹⁾、吉田 雅弥¹⁾、平木 幹久¹⁾、西山 陽香¹⁾、福岡 星夜¹⁾、吉丸 希歩¹⁾、山崎 卓¹⁾
熊本赤十字病院¹⁾

【はじめに】他施設からの患者情報は、輸血検査および輸血療法の実施において重要な場合がある。当院においても院内検査にて患者の ABO 血液型を B 型と判定したが、他施設(以下、Z 施設)の結果が AB 亜型(AxB)疑いであるという情報を得た。今回、我々は ABO 血液型の検査結果が施設間で乖離した原因を追究したので報告する。

【症例】患者は 30 歳代女性(1 妊 0 産)。20YY 年 M 月に近医産婦人科にて子宮内妊娠が確認された。初回妊婦検診時、外部委託検査先の Z 施設にて ABO 血液型が AB 亜型(AxB)疑いと報告され、前医に紹介受診となった。その後、当院での分娩を希望され、妊娠 16 週目に紹介受診となった。

【結果】当院の全自動輸血検査装置(Erytra)で実施した血液型検査は、抗 A(0)、抗 B(4+)、抗 AB(4+)、抗 D(4+)、Control(0)、A1 赤血球(3+)、B 赤血球(0)の反応強度を示した。以上より、B 型 RhD 陽性と自動判定したが、Z 施設と乖離したため、試験管法による ABO 血液型の再検査を実施した。オモテ検査の直後判定は抗 A(0)、抗 B(4+)となり、室温 5 分静置後は抗 A(w+)、抗 B(4+)、ウラ検査は Erytra と同様の結果を示

した。スライド法では抗 A(+)、抗 B(+)で、抗 A において微細な凝集を認め、A 型糖転移酵素活性は 1 倍未満(対照 32 倍)で活性を認めなかった。また、カラム凝集法にて反応時間を変え、手法で実施した。オモテ検査の抗 A において直後(0)、3 分後(0)、5 分後(0)、10 分後(w+)、15 分後(w+)と変化を認め、その他の反応に大きな変化はなかった。

【考察】Z 施設の血液型検査は、当院と同じ Erytra で実施しているが、抗 A(w+)の反応強度を示していた。当院は検体の到着毎に検査を行うが、Z 施設は検査センターのため多量の検体を一度に検査するバッチ処理を行っている可能性がある。従って、カラム内に患者赤血球が分注されてから遠心までの反応時間は Z 施設の方が長く、微量な A 抗原を検出できたと推測する。

【まとめ】他施設と ABO 血液型の結果が乖離した症例を経験した。同じ機器、試薬を使用しているにもかかわらず、施設により実際の反応条件が必ずしも同じではない可能性があるため、他施設からの情報を参考にすることは検査結果に至った過程や背景を考慮する必要がある。(連絡先 096-384-2111)